

稲沢市総合計画審議会〔第2回〕会議録

【日 時】令和8年7月 29 日(水) 午後1時30分～3時30分

【場 所】稲沢市役所本庁舎3階 議員総会室

【出席者】稲沢市総合計画審議会委員(敬称略)

木全 信明	稲沢市議会 議長
黒田 哲生	稲沢市議会 議員
鈴木 純子	稲沢市議会 議員
日比野 貴子	稲沢市議会 議員
曾我部 博隆	稲沢市議会 議員
秀島 栄三	名古屋工業大学 大学院 工学研究科 教授
鈴木 誠	愛知大学 地域政策学部 学部長
中村 麻里	名古屋文理大学 教授
池戸 賢治	稲沢商工会議所 会頭
岩田 毅	愛知西農業協同組合 常務理事
伊藤 浩樹	稲沢市教育委員会 教育長職務代理者
片山 忠二	稲沢市まちづくり連絡協議会 副会長
鈴木 恵理子	稲沢市子ども会連絡協議会 顧問
小田 真理子	稲沢市みらい子育てネット 会長
牛嶋 みゆき	稲沢市連合婦人会 会長
吉川 永浩	稲沢市老人クラブ連合会 会長
杉山 茂和	社会福祉法人 稲沢市社会福祉協議会 会長
兒玉 篤典	稲沢金融懇話会 幹事
市川 真	株式会社中日新聞社 一宮総局 局長
小笠原 三恵子	ママサポートびよびよ 代表
吉次 栄子	ぱいんこーん 会長
森 穂波	公 募
宮崎 佳奈	公 募
加賀 達也	公 募
三谷 歩武	公 募

【欠席者】

谷 茂也	一般社団法人 稲沢市医師会 会長
後藤 靖	連合愛知尾張南地域協議会 代表
柴田 宗敏	愛知県立稲沢緑風館高等学校 農場長

〈事務局〉

岸 宗二	総合政策部長
吉川 修司	総合政策部次長兼秘書政策課長兼病院経営対策室長
山口 裕介	秘書政策課統括主幹
前田 赳史	秘書政策課主幹

平嶋 克紀
大屋 彩
関 健太

秘書政策課主査
秘書政策課主任
秘書政策課

【議事次第】

- 1 あいさつ
- 2 報告事項
- 3 協議事項
 - (1)基本構想・基本計画(総論)案について
 - (2)その他

【事務局】

定刻になりましたので、ただいまから、第2回稲沢市総合計画審議会を開催させていただきます。本日進行を務めさせていただきます総合政策部次長兼秘書政策課長兼病院経営対策室長の吉川修司でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

会議に先立ちまして、岸総合政策部長からごあいさつ申し上げます。

1 あいさつ

【総合政策部長】

本日は大変ご多忙の中、第2回稲沢市総合計画審議会に出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

今回は昨年度実施いたしました人口動態や市民の皆さまにご協力いただきましたまちづくりに関するアンケートなど総合計画策定に至る基礎調査に関する事項についてご報告をいたしました。本日はその基礎調査を踏まえた基本構想・基本計画(総論)案についてご説明申し上げます。

基本構想は本市のまちづくりを進めていくうえでの骨格や基調となる部分であり、基本計画(総論)部分は各論展開の前提となる部分でございます。限られた時間ではありますが、ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。

なお、本日は、谷 茂也委員及び後藤 靖委員、柴田 宗敏委員からは欠席のご連絡をいただいております。また、総合計画策定支援業務の受託事業者である三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社名古屋の研究員も審議会へ出席をしていただいておりますので、お含み置きますようお願いいたします。

それでは、会議の議事進行につきましては、稲沢市総合計画審議会条例第4条第3項の規定に基づきまして、会長が務めることとなっております。以後の議事の取り回しにつきましては、会長にお願いしたいと存じます。

鈴木会長、よろしくお願いいたします。

2 報告事項

〔会長〕

それでは、協議事項に入る前に事務局より報告事項のご説明をお願いします。

〔事務局〕

報告事項につきまして、ご説明をさせていただきます。第1回の審議会におきまして、委員の皆さまからいただきました質疑等について、お答えをさせていただきたいと存じます。

まず、昨年度実施いたしました基礎調査の一つとして、名古屋文理大学の学生の皆さまより次世代によるまちづくり提案をいただいております。前回の審議会におきまして、提案をいただいた学生の皆さまが市内にお住まいか、市外にお住まいかというご質問をいただきました。名古屋文理大学様にご確認をさせていただきましたところ、2名の方が市内で下宿をされており、それ以外の方につきましては、市外にお住まいということでございました。

続きまして、地区別人口データにつきまして、2つのご質問をいただいております。まず1点目として、地区別人口について、人口増減の推移が分かる資料のご要望をいただいております。2点目として、前回の審議会の資料におきまして、地区別に5年ごとの人口増減数を記載しておりましたが、地区別の総人口に対する割合を示していただきたいとのご要望をいただいております。こちらにつきましては、「資料1-1 人口ビジョン」をご覧ください。自治体が策定する総合計画における人口ビジョンは、将来の人口動態を分析・予測し、それを踏まえてまちづくりの方向性を考えるための基礎資料となるものでございます。前回資料の基礎調査と重複する部分が多いため、詳細は割愛をさせていただきますが、ご質問に対する回答としまして、9ページをご覧ください。これらの表は、市内の支所・市民センター地区ごとの人口推移を年齢3階級ごとに示したグラフと、人口構造の推移を示したグラフでございます。たとえば下津地区では、総人口における年少人口及び生産年齢人口、すなわち65歳未満の人の割合が他の地区よりも高くなっております。また、10ページ以降をご覧くださいと、人口減少が顕著な地区において65歳以上の高齢人口比率が30%を超える地区もあり、地区ごとに特色がございます。続きまして、資料1-2の内、「地区別人口増減」と記載のある表をご覧ください。こちらは、5年ごとの人口増減を基に、各地区別総人口における人口増減の割合を算出した表でございます。特色のある部分としましては、下津地区において、2005年から2015年の10年間に、JR 稲沢駅東側の再開発によって大幅な増加をしております。また、上段の「地区別外国人居住者増減表」をご覧ください。こちらも同様にご質問をいただきました、市内各地区における外国人の増減を示した表でございます。各地区において増減の幅はございますが、市内全域で外国人居住者は増加傾向を示しております。なお、外国人を雇用している企業数に関するデータについては、確認をさせていただきましたが、市として数字を把握しておりませんでしたので、不明とご回答させていただきます。

最後に、前回の会議で、『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』における達成度などの状況についてご質問をいただいております。資料1-3をご覧ください。前回の会議でも概要をお話しさせていただいた通り、こちらは令和7年度に実施いたしました市民意識調査の一部を抜

粹したものでございます。次ページから、市民満足度に関する調査項目が並んでおりますが、42 項目中 38 項目で満足度が向上しております。さらに以降のページには、生活行動に関する調査結果を記載しております。これらの結果から、ライフスタイルの変化や社会環境の変化に伴い、市民の生活行動が変化してきていることが伺えます。

なお、『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』の参考指標全般に関するご報告につきましては、現在取りまとめを行っておりますので、次回第3回審議会以降において、詳細を含めてご報告をさせていただく予定で準備を進めております。報告事項につきましては、以上でございます。

〔会長〕

ただいま事務局から報告がありましたが、ご質問等あればお願いします。

〈意見なし〉

〔会長〕

ご意見はないようですので、議事を進めてまいります。

3 協議事項

(1)基本構想・基本計画(総論)案について

〔会長〕

協議事項1の「基本構想・基本計画総論(案)」について、事務局からご説明をお願いします。

＝〔事務局〕＝

【「総合計画基本構想・基本計画(総論)(案)」、「総合計画基本構想骨子」について説明】【説明資料 2-1・2-2】

〔会長〕

まず皆さまには序論の部分をご確認いただき、そのうえで基本構想の概要がこの内容でよいか、積極的にご発言いただきたいと思います。

基本計画は、本日の資料では人口に関する部分のみとなっております。これにつきましては、皆さまから、ご質問や「こうなればよい」というご意見があれば、適宜おっしゃっていただけたらと思います。

本日は主に、序論を踏まえた基本構想の組み立て方や内容について、皆さまから多くのご意見をいただきたいと思っております。どのようなことでも結構ですので、ぜひ積極的にご発言いただけるとありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

【委員】

基本構想の「未来の稲沢が目指す姿」についてですが、人口減少に伴って問題になっているのは担い手不足だと思います。現状の記載を見ますと、担い手については個人の方々に任せようという意向があるように読めます。市内企業は充実しており、企業をはじめ各種団体が活発に活動していると書いてありますので、あわせて教育機関にも目を向けていただき、教育側にもこうした担い手不足における役割への期待を記載していただければと思います。担い手の対象を個人だけでなく、企業、団体、教育機関に向けるのとよいのではないかと思います。

今後 10 年間では 20 代という一番核となる世代が減っていく状況になります。そうした状況を踏まえ、循環型の参画を仕向けるような仕組みづくりが重要だと思います。

【事務局】

おっしゃる通り、現状の記載では個人としての担い手という部分が強く書かれているかと思いますが、将来の人口減少に対応していくためには、個人だけではなく様々な方々のサポートも必要不可欠だと思っておりますので、いただいた意見を反映させていただきたいと思います。

【会長】

今のご指摘を踏まえて、加筆していくということですね。

他にはいかがでしょうか。

【委員】

「幸福度」という言葉が複数出てきますが、これは何を指していますか。

【事務局】

幸福度＝ウェルビーイングと考えており、資料2-1の 20 ページに用語解説もあわせて記載させていただいております。ウェルビーイングとは、単に病気ではないということではなく、「身体的・精神的・社会的に、完全に満たされた良好な状態」を指すものです。したがって、体調面での健康だけではなく、日々の生活や暮らしの中で本当に幸せを感じていただけるような概念として今回記載しております。

【委員】

幸福度の評価はどのように行っていくのでしょうか。アンケート調査結果における前回比較では、稲沢市民の個々の活動が減っているという結果が集計的にいくつか出ていたと思います。一方で、数値が伸び成績が良いように受け取れる指標もありましたが、それでもなかなか人口が増えていない現状を踏まえると、あまり評価が生かされていないのではないかと感じました。

〔事務局〕

資料1－3でお示した市民意識調査の結果報告の概要でございますが、全42項目のうち38項目で比較的満足度が増加している状況です。こちらにつきましては、総合計画に基づいて取り組みを進めてきた結果だと認識しております。

一方で、まだ数字が上がっていないものもございます。特に生活行動につきましては、数字が上がっていないものが多くございますので、なぜこのような結果が生じたのかというところを、次回以降の審議会にて『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』の参考指標の振り返りをさせていただく際に、もう少し詳細に皆さまにお伝えできればと考えております。

〔会長〕

基本構想には、市民一人一人の主観的な幸福感というものを実現していくという方針が総論として書かれています。まず今日の議論として、市として企業を何社誘致する、人口を何人増やすといったミクロな視点ではなく、マクロな視点からウェルビーイングという考え方がこれからの街づくりのとても重要な指針として掲げられているということをお伝えしたいと思います。そのような市民一人一人が幸福感を実感できる状態についてKPIを含めてどう示していくか、それに向けてどれくらい幸福度を高めていくかという、今後10年間の道筋を示すことは、次の重要な作業となります。

また、市民意識調査の結果について、委員の皆さまから何かご意見や補足していただけることがあれば、ご発言いただけたらと思います。

〔委員〕

資料1－3の「稲沢市の現状に対する満足度」で、多くの項目で上昇している結果を受け、市の担当の方が満足しているように私たちには捉えられますが、詳細な分析が必要だと思います。なぜここまで上がったのか、なぜこの項目は低いままなのかということを丁寧に分析する必要があると思います。全体を通して「8割の項目でポイントが上がっています」ということだけで終わってはいけないと思います。たとえば「12 子育て家庭への支援の充実」は13.5ポイント上がっています。一方で、「15 学校教育の充実」は1.2ポイントしか上がっていません。稲沢市としては子育てと教育の両方を重点として謳っていると思うのですが、両施策が連動しているのであれば、本来はどちらも上がってくるはずだと思います。

これは一例だと思いますが、予想以上に伸びたもの、予想までは伸びなかったものについて、きちんと分析していく必要があると思います。

アンケート全体についていつも申し上げていることですが、クロス集計をして「このような結果が出ました」と示すだけでは、単に集計しただけで終わってしまいますので、そこからさらに分析していく必要があるのではないかと思います。

〔事務局〕

おっしゃる通りかと思いますが。単に数値が上がった、下がったと見るだけではなく、その割合全体を見たときに、30%が35%になったのか、あるいは90%が95%になったのかによって意味合いが大きく違ってくるということも認識しております。そうした点を踏まえたうえで、次回以降の基本計画の総論や各論の検討を行っていきたいと考えております。

【委員】

「未来の稲沢②」において、「市内における住宅の供給不足により、親元を離れて新たな生活を始める際の居住先としての受け皿が十分でないことが、要因の一つ」とあります。この結果は、基本構想・基本計画などに反映されてくると思いますが、この点はすでに何十年も前から指摘されており、今更この文面を書くのか、非常に気になりました。もう少し具体的な方向性を示しながら書いていただいてもいいのではないかと思います。結果として同じような基本計画になってしまうのかもしれませんが、それにしても今更感のある文面だと感じましたので、この点についてお伺いしたいと思います。

【事務局】

今回の計画策定にあたりまして、『第5次稲沢市総合計画』『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』のそれぞれの推進状況を見ておりますと、おっしゃる通り、大きな変化は見られない状況が継続しております。そうした中で、『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』におきましては、このまちの基盤づくりを重点戦略として掲げ、これまで政策を進めてまいりました。

なかなか結果が出ていない現状にはありますが、本市としましては、人口減少自体は受け入れながらも、やはり人口拡大に向けた政策にも引き続き取り組みたいと考えております。いわば、両輪で進めていきたいという考えに基づき、新たな市街地の形成、市街化調整区域における地区計画なども活用して、人口を増やす取り組みも合わせて進めていきたいという考えで、記載させていただいたものでございます。

【委員】

就業者数や小売吸引力指数で良い数値が出ています。そうであれば、こうした強みを生かせるような文面をもっと取り入れて、より早い段階でこれに対処すべき姿があってしかるべきだと思います。そのため、発言させていただいたとおり、今更感のある文面で記載するのかが気になりました。

【委員】

まだ準備が整っていない部分もあるかもしれませんが、次回の審議会のテーマにもつながる話だと思いますのでお伝えします。

人口が減少していくのは、どこの自治体でも同じことだと思いますが、稲沢市も2050年までに3万人弱が減っていくであろうという中で、基本構想の「まちづくりの基本理念」にある「スマートシュリンク」というキーワードがとても響きました。次回において、土地活用の観点から、どの地域にこの構想を準備していくのか、たとえば病院が近いエリアなど、そうした機能の集積をどのように構想していくのかという点をおうかがいしたいです。

また、流出を防ぐための流入という部分についても発言させていただきます。土地活用の際に、駅周辺の東西それぞれに、住宅開発ができる土地を提供いただければ、よりアクセスの良いまちとして活用いただけるはずです。私は普段、車の部品を作る会社を経営しておりますが、社員350人のうち、稲沢市に住んでいる社員はわずか20名ほどです。一宮、岐阜、名古屋からも電車を通っている社員が多い一方、稲沢市民が少なく、非常に残念に思っております。

一方で、外国人労働者も 85 人ほどおりまして、そうした方々の住まいは提供されているのですが、より多くの方が住みやすい土地を確保するという観点で、今後の土地利用において、工業団地の設定をどこにするかなど、より具体的に市の人口が増えるような土地の計画をしていただければと思います。

【事務局】

土地利用の方針につきましては、第3回審議会で議論させていただきたいと考えており、現在調整を進めているところでございます。

そうした中で、市街地ゾーンと工業ゾーンに分けてお話しさせていただきます。

市街地ゾーンにつきましては、現在、立地適正化計画を策定していることを踏まえ、コンパクトシティという視点を重視しながら進めていきたいと考えております。そのため、総合計画におきましても、市街地ゾーンについては基本的に機能等を集約しながら、持続可能な都市を形成できるような形で努めてまいりたいと思っております。一方で、現在、土地区画整理事業につきましては一地区で進めさせていただいておりますので、最新の状況を反映しながら、土地利用のイメージを掲載させていただきたいと考えております。

工業ゾーンにつきましては、現状いくつかエリアを指定しておりますが、市民インタビューの際にも様々な企業の方から、稲沢市は非常に可能性があるまちだとうかがっております。そのため、企業立地を推進する部門と調整しながら、できるだけ本市に適した形で工業ゾーンの拡大を進めてまいりたいと考えております。

【委員】

基本構想の 22 ページにある「若い世代から住む場所として選ばれるまち」という部分についてですが、冒頭で、女性を中心とした若い世代の転出の原因は住宅の供給不足にあるという書き方になっています。ただ、若い世代が東京などに転出する場合と、別のところへ転出する場合とでは、原因が異なってくるのではないかと思います。

実際にデータを見ますと、資料1-1の 24 ページでは、東京圏への転出がある一方で、東海圏にも一定数転出しているという結果が出ています。面白いのが、22 ページの「地域別転入・転出状況」において、名古屋市への転出が多いのかと思っていましたが、実際には転入・転出がほぼ同数であり、一宮市に多く転出しているということです。それにもかかわらず、25 ページの通勤による流入では、稲沢市に通勤している方が一定数いるという状況になっています。そう考えますと、若い世代へのアプローチと、実際に働いている方々へのアプローチとでは、異なる打ち手が必要なのではないかと思います。この点について、どのように整理されているのか、おうかがいしたいです。

【事務局】

働く方々の転入・転出につきまして、通勤は一宮市から多く入ってきております。ただ、住まいの状況を見ますと、一宮市への転出が多い状況でございます。一つの結論としましては、稲沢市に本当は住みたいのだけれど、住むところがないために一宮市に出て行ってしまっているのではないかと、いう状況があるのではないかと感じております。

そうしたことから、総合計画においても進めてまいりました土地区画整理事業を、引き続きなんとか形になるよう進めていき、住める場所を増やしていきたいと考えております。総合計画においても、そうした視点を持って進めていきたいと思っております。

また、転出の原因が異なるというというご意見につきましては、検討させていただきたいと考えております。

【委員】

先ほど、「稲沢に住みたいけれど、住む場所がないから仕方なく一宮に住んでいる」というお話が事務局からありましたが、私はそれについて少し違うのではないかと考えています。

私自身、稲沢市出身ではなく、夫も稲沢市出身ではないのですが、家を建てる際にどこに住むかを検討し、稲沢市を選びました。ただ、実際に色々調べてみる中で、稲沢市は知名度が低いと感じます。「一宮市が名古屋から近い。電車もあり 20 分程で行ける」という声もよく聞きます。実際に何を調べても一宮市の方が、情報が圧倒的に多いと思います。

たとえば、スポーツイベントや、名古屋文理大学文化フォーラムで舞台公演などが開催される際、一宮市ではイベントに市自身がコラボして、市の PR も一緒に行っていることがほとんどです。一方で稲沢市では、豊田合成記念体育館 ENTRIO での試合や文化フォーラムで舞台がある際も、外に向けて稲沢市を発信していこうという気概があまり感じられず、自分たちの魅力を外部にアピールしようという姿勢が、あまり見えてきません。

また、住む場所自体が全くないわけではないと思います。競売にかかっている土地も、ずっと同じ場所が売れ残っているのを見かけますし、住もうと思えば土地はあるはずです。駅からの距離をそこまで気にしなくてよく、リモートワークの方が住めるような場所に土地が出ていたりもします。そのため、「住む場所がない」というよりは、やはり PR 不足が一番の課題なのではないかと、個人的に思っています。

【事務局】

市の PR ということについては、シティプロモーション課を立ち上げています。たとえば、名古屋栄の地下街の「まちのたね」というイベントスペースで「出張！新鮮いなざわ TORETATE 市」を開催し、市の PR を行うといった取り組みなども行っているところです。

【委員】

私も実際に、以前開催されていた「まちのたね」のイベントに足を運びましたが、非常に人通りが少なく、「稲沢市に住もう」と思えるような PR はほとんど感じられませんでした。

【会長】

今のようなご指摘はとても重要だと思われ、今回の基本構想の中に、きちんと取り込んでいかなければいけないと思っています。どのように表現するのか、どこで示すのかということを検討し、指標化できるものであれば指標化すべきだと思います。事務局として、そうした観点で受け止めていくことが重要だと思っています。

行政の取り組みの結果が芳しくなかったという点も、とても重要なご指摘です。そうしたご意見について、責任を持って取り組んでいくべきだと思います。

委員の皆さまにはぜひ今のようなご指摘を出していただきたいです。

【委員】

資料 1-3 の「満足」「やや満足」などのアンケートの点数だけだと、よく分からない部分があると思います。せっかくアンケート調査を実施するのであれば、点数だけではなく、なぜそう感じるのかという理由を自由記述で調査するのも良いのではないかと思います。そうすると回答率が下がってしまうかもしれませんが、せっかく調査するのであれば、具体的にどこに不満があるのかなどが分かると、なお良いかと思います。

【委員】

高齢化率が上がっている中で、高齢者の幸福度を考えるうえで、デジタルに目を向ける必要があると思います。たとえば、パソコンを操作して楽に買い物ができるネット通販はすごく便利であり、その日に注文すれば次の日には届きます。

しかし、高齢者はデジタル難民と言われるように、デジタルから離れてしまっています。デジタル社会が加速していく中で取り残されてしまう高齢者という視点をもう少し取り上げていただけると良いと思います。「そうした方々のために稲沢はこういうことをしている」という発信があれば、すごく住みやすいところだと実感できると思います。

【事務局】

次回以降に各論における議論に移っていく中で、特に高齢者福祉の部分において、そうした視点を持って進めていきたいと考えています。

また、本市におきましては、大学や高校と連携し、学生の力を活用して、高齢者の方向けにスマホ教室を実施しております。こうした取り組みも踏まえながら、各論の作成をさせていただきたいと思っております。

【委員】

資料2-1の16ページの「多様性と包摂性のある社会の形成」において、計画全体の中で人口が減っていく話があるため、どうしても女性の数という話が出てきます。ここで「新たな担い手として女性」とありますが、これはどの時代から見て「新たな」という意味合いなのでしょう。この「多様性」というテーマの中に、この文面を入れているという点についても、おうかがいできればと思います。

【事務局】

文面については検討させていただきます。

【委員】

基本構想について、きれいな言葉が並んでいると感じていますが、事務局として、『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』がどこまで進捗していて、どのような点において問題があったのかについて整理されていますか。その点は、今回、『第7次稲沢市総合計画』を作成するにあたって、生かしていかなければならないのではないかと思います。

私はこちらの審議会に参加する前に、名古屋市の「まち・ひと・しごと創生・SDGs 推進会議」という、総合計画の前段階にあたる会議の委員を務めていたことがあります。その会議では、各項目について定量的な達成度が示されており、大変わかりやすく、見やすい形になっておりました。もちろん、数字で示すことが難しい項目もあるかと存じますし、すぐにお出しいただくのが難しいということも承知しております。

ただ、『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』についても今回と同様に会議を行い、一生懸命お考えになって作られたものだと思いますので、時代の変遷の中でどのような点に課題があったのか、今の段階で改めておうかがいしたいと考えております。

【事務局】

『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』の前半の振り返りにつきましては、皆さまのお手元に『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』がございましたら、142ページ以降に「参考指標」として指標を設定しております。次回以降はそこに記載のある項目につきまして、結果をお示しさせていただきたいと考えております。

また、『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』では35ページに「重点戦略」を掲げておりまして、「攻めと守りの定住促進」「若い世代が安心して子育てできる環境整備」「多種多様な産業振興」「次世代のための行政改革」という、4つの柱を設けております。そうした中で、「攻めと守りの定住促進」において、名鉄国府宮駅周辺の再整備や、新たな住居系市街地の形成につきましては、やはりなかなか成果が上がっていない状況かと考えております。また、こちらにつきましては、『稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略』においても同様の内容を掲載しておりまして、現時点では数値目標を達成することが難しい状況と考えております。

【会長】

計画の連続性をしっかり認識し、『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』における到達度・達成度を、『第7次稲沢市総合計画』の中でうまく表現しながら、それを踏まえて、このように展開していくのだという計画策定が必要だと思います。そうした連続性を具体的に表現することも大事なのではないかと委員からのご指摘だと思います。

その点については今後の基本計画の部分で表現されることになると思います。

【委員】

資料2-1の18ページに記載されているバックカスティングの手法では、「あるべき未来」の設定が重要なポイントになると考えております。

その「あるべき未来」を、バックキャスティングによってどのような手法・手順で設定されたのか、具体的な流れを教えてくださいと思います。

【事務局】

今回の総合計画の策定にあたりましては、まず昨年度の状況分析や、市民インタビュー、ワークショップなどを通じて、皆さまが現在の稲沢市にどのような期待をお持ちか、またどのような課題があるのかを整理いたしました。そのうえで、そうした課題を解決した「あるべき姿」をゴールとして設定し、4つの「未来の稲沢」の姿を描いております。

たとえば、「未来の稲沢①」では、人口減少が避けられない時代にあっても、産業活動・地域活動・経済活動が活発なまちを理想像として掲げ、その実現を目指し、事業を進めたいと考えております。

【委員】

この計画は、10年後を見通したものかと思います。私は愛知県外の出身で、こちらに来てから小牧市や長久手市などによく訪れるのですが、まちの雰囲気は稲沢市とは大きく違い、都会的な印象を受けます。

その中で、稲沢市の一番の課題は名鉄国府宮駅周辺ではないかと感じております。現在の名鉄国府宮駅は、どうしても「田舎の駅」という印象が強く、ここをしっかりと整備しない限り、まち全体も大きく発展しにくいのではないのでしょうか。たとえば、大きな施設を誘致する、駅前を徹底的にきれいにするなど、明確な方針を持って取り組まないと、将来的に魅力の乏しいまちになってしまうのではないかと危惧しております。

そのため、名鉄国府宮駅周辺のあり方について、ぜひそのような観点からもご検討いただければと存じます。

【事務局】

現在の計画におきましても、名鉄国府宮駅周辺の再整備は重点施策として位置付けております。

現時点でも取り組みを進めているところですが、この事業は短期間で完了するものではございませんので、『第7次稲沢市総合計画』においても継続して取り組み、稲沢市の玄関口にふさわしい駅として整備してまいりたいと考えております。

【委員】

バックキャスティングの考え方についてですが、「理想の姿を掲げて前に進めていく」ということかと思いますが、具体的にどのような進め方を想定されているのかをおうかがいしたいです。社会情勢の変化が今後さらに激しくなる中で、柔軟に事業を新陳代謝させる仕組みはあるのでしょうか。

私はシステム開発の仕事をしておりましたが、アジャイル手法のように、短いスパンでPDCAサイクルを何度も回し、良いものは続け、うまくいかないものはやめるという形で柔軟に進めていくやり

方があります。そのような手法に近い仕組みが、現在の計画の運用の中にあるのかどうか、教えていただけますでしょうか。

【事務局】

現在の計画につきましては、基本構想・基本計画ともに期間は10年、推進計画については前半5年・後半5年に分け、まず前半5年の取り組み状況を踏まえたうえで、後半5年にどのような事業に取り組んでいくかを検討しております。

また、推進計画につきましては毎年、進捗管理を行っております。各事業の進捗状況を確認し、不足している部分があれば必要な事業を進められるよう調整しながら、計画を推進しております。

【委員】

2点述べさせていただきます。

1点目は、次回お示しいただけると助かりますが、資料2-1の3ページ目下段の「市街化区域・市街化調整区域比率」について、稲沢市は11.3%となっております。先ほどから、「住居が不足している」「住むところがないため人口が外に流出している」といったお話が出ておりますが、それを踏まえまして、稲沢市の10年前・20年前、特に合併当時の比率がどうであったのかを、あわせてお示しいただきたいと思います。

他市についても同様のデータがあるかと思しますので、他市も同じように市街化調整区域の比率がほとんど変わっていないのか、あるいは他市が市街化区域を広げる努力をした結果、人口が増え、住宅が増えたのか、そのあたりが今のデータだけでは分かりづらい状況です。単純に市街化区域を増やせば人口が増えるのかという点をきちんと検証する必要があると思しますので、過去10年・20年程度のデータを、次回で結構ですでお示しいただければと思います。

2点目は、「リニアインパクト」という言葉についてです。17ページの「リニア開業と名駅地区の再開発促進」の箇所以外、「リニア」という言葉が出てくるのはこの1ヶ所のみだと思います。『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』の冒頭、加藤市長のごあいさつの中でも、リニアインパクトの必要性は強く述べられていました。ただ、開業が大きく遅れたことで、結果的に稲沢市は今、助かっている状況にあるのではないかと感じております。

もし本来の予定通り開業していれば、先ほど委員もおっしゃっていたとおり、各種対応が進んでいない現状では、稲沢市はさらに出遅れることになったのではないかと思います。今回の計画以降にも、リニアインパクトに関する考え方が特に出てこないため、稲沢市として今後どのように対応していくお考えなのか、お伺いしたいと思います。

【会長】

1点目の部分は、次回に向けた宿題ということになります。

2点目のリニアについての扱いについては、現段階で事務局から言えるところがもしあればお願いしたいと思います。

【事務局】

現計画を策定する10年前には、「2027年に東京・品川～名古屋間が開業する」という具体的な年次が示されておりました。ちょうど『稲沢市ステージアッププラン(第6次稲沢市総合計画)』の期間と重なることから、ある意味バックキャスト的に「10年後の開業」をゴールとして、そこに向けてどのような取り組みを進めるかを念頭に計画を作成していたと理解しております。

しかし現状では、リニアの着工が大幅に遅れており、JR東海のホームページ上でも具体的な開業時期は示されていない状況です。とはいえ、委員がおっしゃったように、将来の開業を見据えますと、出遅れてはいけないことには変わりませんので、これまでの取り組みは引き続き進めていく必要があると考えております。

一方で、「全然進んでいないのではないか」「同じことを書いているだけではないか」というお叱りを受ける可能性があることも、私どもとしては認識しております。それでも、将来的にリニアインパクトを稲沢市が積極的に取り込むべきであるという考え方自体は変わっておりません。文章の書きぶりとして十分伝わっていない部分はあるかもしれませんが、私どもとしては、リニアインパクトを見据えた取り組みを今後も目指していく考えであります。

【委員】

ごみ焼却施設では、非常に多くのごみが集まり、その焼却時には大きな熱エネルギーが生まれます。他の地域では、その熱エネルギーを活用してコーヒー豆をハウス栽培するなどの取り組みも行われていると聞いております。稲沢市でも、ごみ焼却時の熱エネルギーを活かしてコーヒー豆を栽培するなど、地域の特色になるような新しい取り組みが生まれるとよいと思いました。

【委員】

私は子育てに携わっている立場から、「未来の稲沢②」の「若い世代から住む場所として選ばれるまち」という点について申し上げたいと思います。特に30～40代の子育て世代にとって、どのような環境で子育てができるのかが重要になると思います。そのため、今後の資料として、市内の保育園・幼稚園・小中高校に通っている児童生徒数、保育園の統合・閉園状況とその認識、ファミリーサポートなど子育て支援サービスの充実度について、数値や一覧で示していただけるとありがたく存じます。

私たちのグループは託児を扱っており、20年前は1・2歳児の託児依頼が非常に多かったのですが、最近は保護者の就労に伴い1歳頃から保育園に預けるケースが増え、保育園の空きもあることから、託児依頼がかなり減ってきていると感じています。保育に関する現状を客観的なデータで確認できると助かりますし、あわせて高齢者が増えている中で、高齢者施設の整備状況やサービスの充実度も示していただけるとありがたいです。

また、他市町村では、高齢者施設と子育て支援施設を隣接させて高齢者と子どもが交流できるようにしたり、若い世代が高齢者と同じ住宅に住んで日常生活を支援する代わりに家賃を抑えたりする仕組みなどもあると聞いております。こうした仕組みを参考に、世代を超えてお互いに助け合えるような施設づくりやまちづくりを、今後の方向性として検討していただければと考えております。

【委員】

私は 2000 年に入社した際の最初の赴任地が稲沢支店であり、2026 年に再び稲沢支店へ赴任いたしました。率直な感想として「良くも悪くもあまり変わっていない」と感じております。

私は岐阜県の出身なのですが、同県では 20 年前と比べて田んぼが大きく減っており、日本の食料自給率は大丈夫なのだろうか心配になるほどです。ただ、その影響もあってか、瑞穂市など一部の市町村では人口が増えているのだろうと見ております。

稲沢市のお客様とお話ししていると、土地の活用については強い関心をお持ちの方が多いと感じています。そのあたりにつきましては、次回の土地利用方針を検討していく中で、改めてお話しできればと思っています。

【委員】

稲沢市の面積は79平方キロメートルで市街化区域は 11.3%に限られます。市域の多くが市街化調整区域であり、約6割の方が調整区域に住んでいます。調整区域に住む方々は市街化区域と比べて、不便さ・不公正さを感じています。たとえば、祖父江町の方が名鉄国府宮駅に行こうとすると駅前の駐車場を活用することとなりますが、駐車場のコストを考えると、結局はコストが割高になるという実情があります。

まちの構成や駅周辺整備に課題があると考えています。県の許認可事業であるため市街化調整区域について市街化が難しいことは承知しております。しかし、生産年齢人口を増やさない限り、市の財政力は落ちていきます。市街化をして固定資産税の増収も考えていかなければなりません。稲沢市の市街化区域割合は 11.3%ですが、他の市町村は 35%程です。調整区域を市街化区域に置き換える方法論を地区計画として全面的に進めていかないと、より厳しい状況になってしまうと思います。財政力が下がり、財政調整基金が少なくなっていることも危惧しています。

また、公共施設について、昭和 30 年代に建てられたものについて、耐用年数を迎えている施設が多くなっています。更新に対応していこうとすると年間 19 億程の赤字になると聞いています。このような危機をどう乗り越えていくかをぜひご検討いただきたいと思います。

【委員】

資料1-3について、ここで報告されているアンケート調査結果は次期総合計画の策定に向けたものだと思われます。評価欄についてプラスになったものは○、マイナスは×が記載されています。この表に基づいて市の担当者方はどのように評価し判断しているのでしょうか。たとえば「1 名鉄国府宮駅周辺の活気や魅力」について、2017 年度 30.2%から 2025 年度 35.5%に上がったことで○と捉えていいのか気になりました。

【事務局】

資料1-3はあくまで増減をお示ししたものです。評価の具体的な内容の協議については、各論に移った段階で進めさせていただけたらと考えております。

【会長】

評価と書いていながら、○×という記載だけではどう評価しているのかが読み取れません。

今日の時点では、資料1－3は数字の変化を示した資料と、皆さまにはお受け取りいただけたらと思います。

【委員】

稲沢市にはバレーボールとハンドボールで日本一のチームが2つもあります。豊田合成記念体育館 ENTRIO には3,000人近くの集客があり、ほぼ毎試合満員となっています。もっと市が PR して売り込んでほしいと思います。また、試合の後、観客がそのまま帰ってしまうのはもったいないと感じています。もっと市を PR できたりお金を落としてもらえたりする工夫があるといいと思います。ENTRIO をうまく活用して市の知名度を上げて欲しいと思っています。

【会長】

先ほどのシティプロモーションにつながるご意見かと思います。ぜひ各論の議論の際にもご意見いただけたらと思います。

【委員】

平和地区や祖父江地区で子どもを含め、人口が減っています。下津地区には人がたくさんいますが、市の西側は人がいないのが実情だと思います。「名古屋まで 10 分で行ける」という交通アクセスが市の利点に挙げられていますが、祖父江町からだとも 40 分かかります。稲沢市は広いので、人の流れを今後作っていただかないと、西側の地域と東側の地域で差が広がってしまうと思います。

「自然」というと、稲沢市では木曽川、祖父江を連想します。都市計画は二極化した考え方を出していただけたらと思います。

また、学校は老朽化しています。子どもの更なる減少に伴い、このままいくと複式学級も今後出てくることが見込まれます。「自分の子どもをクラス替えがない学校に通わせて良いのか」と考える保護者もいると思います。なぜ稲沢市に子どもが来ないのかということについて、根本的な問題があるように思います。今の若い世代の保護者がどこに住むか、どこに家を建てるかを考える際に、第一にクラス替えがない学校で良いのかと感じると思います。そうした視点も都市計画の中ではしっかりと持っていたきたいです。総合計画では 10 年後を見据えています。より長期的な視点を持っていたけたらと思います。

【委員】

次回の審議会では、まちづくりの課題も意見として挙がってくると思います。これまでも総合計画の議論の中で名鉄国府宮駅周辺などで土地区画整理事業の計画がありました。一箇所は進み出していますが、その他は進んでいないのが現状であり、下津地区では計画撤回の話もありました。そうした点を次回以降、議論させていただきたいと思っています。

【委員】

資料2-1の17ページに「予測困難な時代」とあるように、地震の発生、新型コロナウイルス感染症の拡大、中東情勢の悪化など、多くの予測困難なことが起こっています。市として計画していたことの修正が求められることも考えられるため、より細やかな対応が必要になると思います。

【委員】

資料2-1の21ページに将来都市像の記載がありますので、こういった部分の実現が、次期計画に向けた課題であることは明確であり、しっかり計画に載せていただくことが重要だと思っています。行政が中心となって計画を進めていただければ、稲沢市の未来は本当に明るいものであるだろうと考えております。

次回以降、土地活用等について議論させていただきたいと考えております。

【副会長】

計画の骨格に関わる点について、意見させていただきます。

資料2-1に示されているバックカスティングの考え方については、「理想とする未来」をどのようなプロセスで実現していくのかを、より明確に示す必要があると考えます。もし「これまでどおりのやり方を続ければよい」「投入量を2倍にすれば効果も2倍になる」といった状況であれば、そもそもバックカスティングという発想を用いる必要はありません。しかし、先ほどもご意見があったとおり、先行きが見通しにくい時代だからこそ、この考え方が重要になってくるのだと思います。

では、「理想の未来」が具体的にどのような姿なのかという点ですが、おそらく22、23ページに記載されている「未来の稲沢」が、それに該当するものと理解しております。ただし、バックカスティングを用いるのであれば、そのゴールに向かう過程として、どの時点で何に取り組むのかという「手前のステップ」が示されていることが重要だと思います。現状の記載では、その中間段階が十分に描かれていないように感じます。

まず、「未来の稲沢」が理想の未来として委員の皆さまの納得を得られるものになっているかどうかを確認したうえで、その少し手前、そのさらに手前の段階で何を実行していくのか、時間軸を意識して整理することが求められると考えます。

たとえば人口減少に対して、多くの自治体では公共施設の集約・削減や、空き家の解消などにすでに取り組んでいます。そうした現状の取り組みや課題認識を踏まえたうえで、「未来の稲沢」にどうつながっていくのかを示し、時間の流れが分かるような内容にしていきたいと思います。

また、計画の中では「地域資源」という言葉が使われていますが、それらは必ずしも一朝一夕に活用できるものとは限りません。たとえば駅前の土地という資源ひとつをとっても、名鉄国府宮駅周辺には複雑な課題があると考えられます。自然という資源についても、活用までには一定の時間や段階が必要になります。

こうした点を整理し、プロセスが分かる形で、次回お示しいただければありがたく存じます。

【会長】

皆さまありがとうございました。本日は基本構想・基本計画について、ご意見をいただきました。次回以降の宿題についても具体的にご意見いただきましたので、これらを踏まえて第3回審議会を迎えられるように進めてまいりたいと思います。

もちろん第3回ではなく、第4回の部会に関する検討課題もありましたので、その点についても今後議論していけたらと思います。

協議事項「(1)基本構想・基本計画(総論)案について」は以上とさせていただきます。

(2)その他

【会長】

続きまして、「その他」について事務局から説明をお願いします。

=【事務局】=

【今後のスケジュール、次回の審議予定について説明】

【会長】

今回は基本構想について議論しました。バックカスティングという考え方は大学関係では日常的に使いますし、その使い方についても神経を使う部分であります。今回の計画の作り方については、正直なところ、雑という印象を感じました。委員から具体的なお助言をいただけたとは思いますが、バックカスティングに至るまでのデータはお持ちだと思しますので、うまく活かして次回に向けて練り直しをしてください。

それでは、以上をもちまして閉会とさせていただきます。もし具体的なお意見がある場合や、こういった資料があるといいというご提案がありましたら、遠慮なく事務局までご連絡いただけたらと思います。

それでは事務局にお返しします。

【事務局】

鈴木会長、皆さまありがとうございました。資料については事前に送付させていただきますが、「こういった資料があるといい」というご提案がもしあれば、ご用意できるものについては対応させていただきます。

それでは、閉会にあたり岸総合政策部長より一言申し上げます。

【総合政策部長】

長時間にわたり慎重審議を賜りまして、ありがとうございました。

ご意見やご指摘いただいた点につきましては、内容を十分に整理させていただき、実効性ある総合計画に向けて取り入れてまいりたいと考えております。委員の皆さまにおかれましては、ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、次回の審議会においても更なるご審議を賜りたいと存じます。

本日は、誠にありがとうございました。

【事務局】

これにて、第2回稲沢市総合計画審議会を終了いたします。

本日は会議にご出席いただき誠にありがとうございました。交通事故にはお気をつけてお帰りいただきますようお願いいたします。

以上